

## 令和6年度通常総会

開催日：令和6年8月5日

場 所：高知県立高知青少年の家

○中嶋会長 どうもこんにちは。会長をやらせていただいています、中嶋です。

今日は、暑い中、また遠い中、御苦労さまでございます。いつも多くの方が集まっています。

去年は小規模林業推進協議会の会員と市町村の職員の方々を呼んで、会合を持ちました。東で1回やって、西で1回やらせてもらったんです。そのとき、作業道の補助金が1mあたり2,000円以上つかない市町村からこられている方がいらっしゃいました。今日の午前中も、そういう方の対応をしていたんですが作業道の補助が少ないということで、2年間林業をやめてる状況に陥ってます。小規模林業では作業道の補助が2,000円以上ないとなかなかできません。作業道は規模が小さくても使い続けられる、次の間伐も、その次も。そういう道ですから、規模の大きな事業体とはちょっと思想が違うんですけど、そういう思想が違うやつも、ちゃんと補助の対象にしてほしいということで、今、要望をあげています。

あと、最近のトピックで言うと土砂災害がありますが、実は林業がかなり絡んでます。今の林業は、植えてから50年で皆伐していて、日本の林業界ではバランスの取れた状態だといっていますが、それは早いぞ、という話なんです。

このサイクルを見ると、植林して、下刈りして、除伐して、その次、伐採する。伐採時には林業専用道路、幹線作業道を大きい幅で入れてます。作業道は完全に裸地で、大型機械を使ってやってることもあって、ここからかなり土も削られて出ていきます。

ヨーロッパやアメリカの山に比べて、日本の山は非常に急峻なので雨による浸食の影響が大きく、土砂流出による災害が起きやすいです。また、高知県は破碎帯が多く、曲がった尾根の内側に林道を入れると林道の崩壊が発生しやすいですので、林業をやる上で知っておくことが非常に重要です。真砂土や破碎帯の多いところでは、大きな施業をやると崩れてしまいます。

今の日本は50年で全部切って回そうというのが定着しています。最近、さらにバイオマス発電所がどんどん建築されて、自給率を上げるために、今、ここへどんどん供給

して、日本全国で切られた木の6割がパルプかこの発電で使用されている状況があるわけです。今の日本の林業は非常に大きな機械を入れて、大きなビジネスとしてやっていますが、搬出コストが非常に高いなかで、こういう林業、日本の立地に合っているのかという話です。

逆にこれらと裏腹になるんですが、ヨーロッパなどと異なって、急峻に入り組んでる日本は高齢樹化が可能なんです。日本ほど高齢樹になるような木があるところは珍しいです。県外には100年を超える木を育てている方もいらっしゃるのですが、小さい作業道で林業をやっています。作業道のプロが作った道だと、40年前に作ったものをそのまま使っていたりして、既存の林業ではありえない道を作っているんです。100年を超える、スギ・ヒノキの山はめっちゃくちゃ儲かります。

40年以上、間伐施業をやってきた徳島県の作業道のプロの人工林は、すばらしくて、みんな見に来たがります。みんなにとって、この人工林は森づくりの学びの場となっていて、多くの林業関係者や研究者が訪れる。そして、僕たちが経験したのと同じように、訪れた人々はその森の豊かさに驚き、癒やされて帰っています。

今の林業は売上げが管理費の半分くらいで経済的に合っていないくて、補助金で動いています。この補助金頼みの林業をこのまま続けていいのかという話です。けれど今は、このやり方で業界が動いているので、これを私たちが全部、否定しているわけではない。それはそれで動くんだろうが、やっぱりそうじゃない林業もきちんとサポートしないといけないです。

小規模林業のメンバーもきちっとした施業を、ストイックな多間伐施業、2~2.5メートルの道を入れて、ちゃんとやっていける状態を創出したいです。環境保全型の林業を、小規模林業推進協議会は目指すんだと。大量生産型の林業もありますが、そういうやり方もやりましょう。

どうもありがとうございました。